

は誌上のみでなく、機会あるごとに、文獻を重ねさせていただければ幸いです。

## 鹿児島県に於ける麓集落の 地理学的考察

河野 泰子

研究地域は現在行政区画に於ける鹿児島県を以って行い、研究目標は正史地理学の立場から麓集落成立の背景たる環境条件を明らかにし、更に地域の環境条件にいかんそれが対応し、或いは対応して行ったかという点に本課題の主眼を置いた。地理学的考察をするには、更に広い視野に立って種々の分野に立ち入り入るべきなのであるが、実際私がなし得た範囲は狭小であり地理学的考察に迄至らなかつたが、課題に対する適切なる言葉が見つからなかつたので以上の如きものとなつた。環境条件として自然環境のみ取り扱つた理由は、本県の自然環境が特異なものであり、それが又麓集落成立の一要因たる位置にあることに注目したからである。自然環境の中でも地形・地質、気候の三分野に留めたが、地形上、重要なことは、細分されていること、又地質上はその殆んどが中生代でこれらをおよって或いは中生代と中生代の間に火山岩地域が発達していること等を述べ、気候上は亜熱帯気候への漸移地域としての性格を有していること、及び県内の四気候区について述べた。以上で自然環境の概要をつかみ、これより本課題の中心の麓集落について述べるのであるが、まず麓の意義及び分布を明らかにし、それから麓の立地条件としていかなる地域が選ばれたが且つ位置の点で他の集落……（在、蒲、町）といかなる関係があつたか、更に現在に至る迄の変遷及現在の県内で占めている地位について述べて来た。本県の現在の主要都市の前身をさかのぼればその殆んどが麓集落に起因していること、そして今日も尚政治的都市として地方政治、経済、文化、交通の中心地となり、機能上は封建時代は政治一色なものから、現在は次第に都市的機能を有し商業的色彩および多彩になつて来ている。しかし中には政治的機能をすっかり他の集落にうつわられ、かつては栄えた麓も今はさびれた田舎町で零細な農業を営んでいる町もあるが、この様な所ではかつての麓の姿を見ることのできるのである。このことは結局都市計画外の区域であつたこと、即ち、徒歩交通から鉄道開通への変革に伴つて地理上に占めている重要性の増減による事は当然である。

以上が私の論文の要旨であるが、時間的制限がなければ更に広く深く追求し、即ち各地域の環境を調査し、そして本県に於いては集落の時代的変遷がいかなる作用に伴ったものかを、具体的に明確に実証してみたい。

## 静岡市東南部の地形と土地利用

—— 安倍川左岸低地と有度山丘陵西部 ——

日 月 邦 子

調査地域は静岡県の安倍川左岸低地と有度山丘陵の西半で行政上は静岡市に属する。低地は安倍川の沖積平野である静岡平野の一部で東海直線以南の安倍川を西の境界とし丘陵では作業の便宜上は中央を通る水系を境にした。

本論文は第一章調査地域概説でまず調査地域を示し、自然、人文環境を第二章の前説として概説的に述べた。第二章地形では、地形分類の方法とその結果について述べ、地形に関して2,3の考察を加えた。最後の第三章土地利用では、土地利用図をもとに、その現況を地形面との関係から述べ、次に農業を地区別に、主として統計を用いて更に作物別に現況と今後の見通しなどについて述べた。そして最後に調査地域が東海地方の一地域として、どのような性格を有するかを述べて土地利用のまとめとした。

次に第二章の内容を簡単に述べる。

第二章地形：地形分類は、2万5千分の1の地形図「静岡市東部」を基図に、4万分の1の空中写真を用いて予備的な分類をし、後の現地調査で完成した。調査地域の地形は、丘陵地、低地、海岸平地の三地区から成り、地形分類の結果は表に示した通りである。

表 地形分類（付、地形分類図）

- Ⅰ. 丘陵地地形
  - 侵蝕平坦面
  - 上位台地面（日本平面）
  - 下位台地面（国吉田面）
  - 急傾斜面
  - 河成堆積面（谷底平野、扇状地）
  - 海蝕崖
  - 崩壊地
- Ⅱ. 低地地形
  - 自然堤防
  - 堤間低地（後背湿地を含む）